

一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の数値目標の達成状況について

【指標No.1】総費用

(1)数値目標

時期	目標
清掃センター1場化前	平成21年度の廃棄物処理に係る総費用46億5千万円の1割削減
清掃センター1場化後	平成21年度の廃棄物処理に係る総費用46億5千万円の2割削減

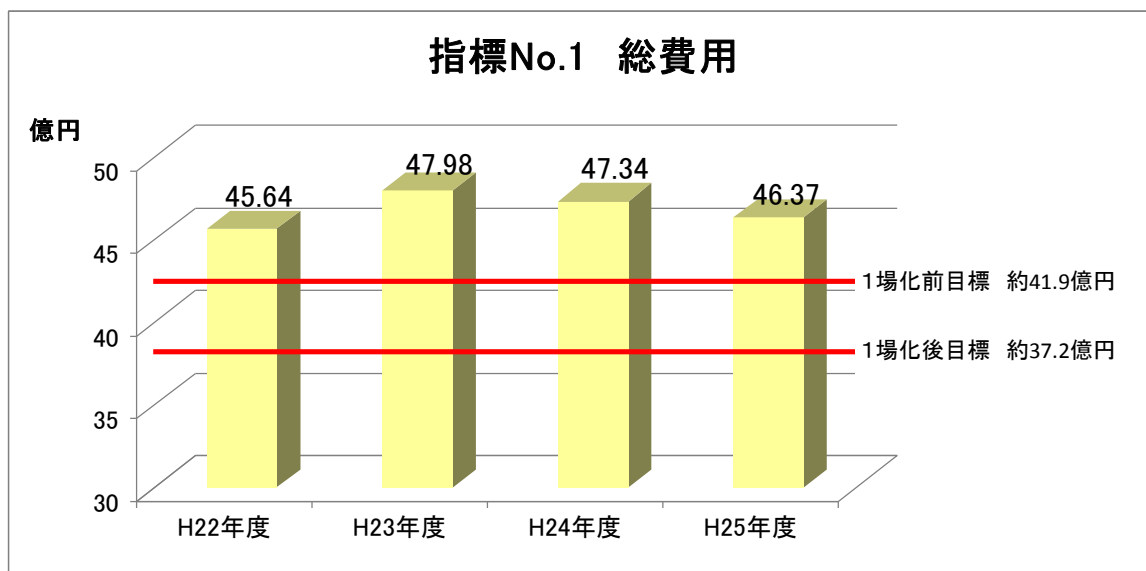
※総費用の算定は環境省「一般廃棄物会計基準」に基づく

※現行計画では、本市のごみ焼却施設を平成27年度に1場化することを位置付けている

(2)実績

時期	実績	平成21年度総費用との比較
平成22年度	45.64 億円	H21の総費用を0.89億円下回る（1.9%の減）
平成23年度	47.98 億円	H21の総費用を1.45億円上回る（3.1%の増）
平成24年度	47.34 億円	H21の総費用を0.81億円上回る（1.7%の増）
平成25年度	46.37 億円	H21の総費用を0.16億円下回る（0.3%の減）

※東日本大震災に係る災害廃棄物の処理経費は除いてあります。



(3)状況分析

- ◆ 現行計画策定前まで減少傾向にありましたが、震災後の状況変化の影響により、増加しています。
- ◆ 平成23年度は、震災により被害を受けた施設の復旧に係る費用の増加により、平成22年度と比較し、増加しておりますが、平成23年度から平成25年度にかけては、収集運搬などの委託に係る労務単価等が上がっているものの、震災に伴う施設復旧に係る経費が減少してきていることから、微減で推移しております。

【指標No.2】 1人1日あたりのごみ排出量

(1)数値目標

時期	目標
平成27年度	1,000 g/人・日
平成32年度	900 g/人・日

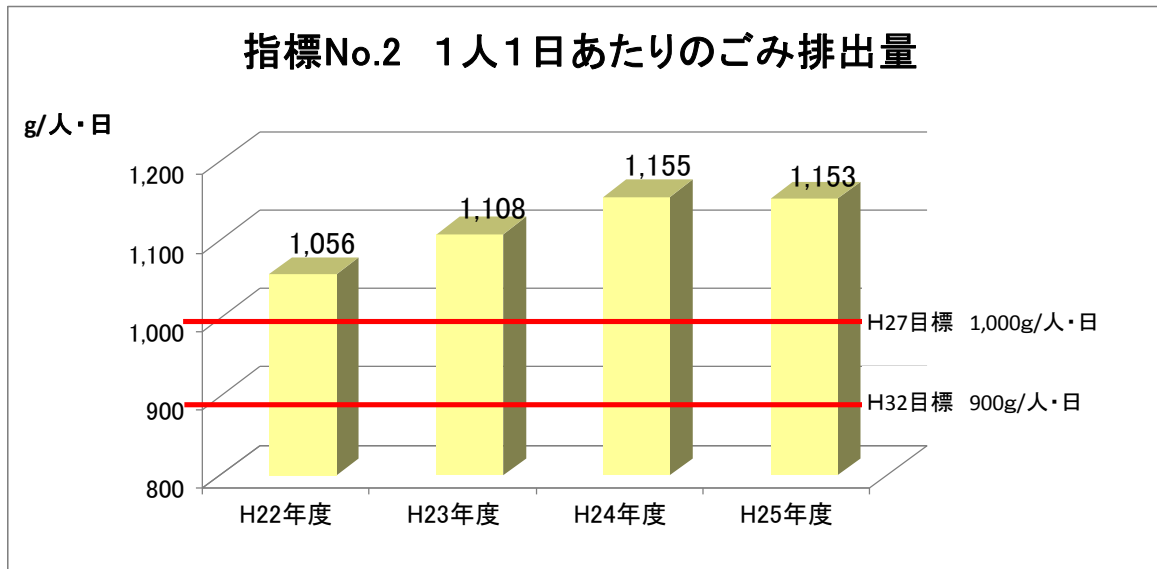
※算出式

指標 = [古紙含むごみ排出量

÷ 人口(10/1現住人口) ÷ 365or366]

(2)実績

時期	実績	平成27年度目標値との比較
平成22年度	1,056 g/人・日	目標値を56 g/人・日、上回っている
平成23年度	1,108 g/人・日	目標値を108 g/人・日、上回っている
平成24年度	1,155 g/人・日	目標値を155 g/人・日、上回っている
平成25年度	1,153 g/人・日	目標値を153 g/人・日、上回っている



(3)状況分析

- ◆ 統計上把握されている現住人口が減少する一方で、現住人口に含まれない避難者や復旧・復興事業作業員の増加によりごみ量が増加しており、現行計画策定前まで減少傾向にありましたが、震災後は増加傾向に転じています。(次表参照)
- ◆ 震災後、新築件数が増えていることから、建て替えや引っ越しの際に家財道具等の整理を行なうことにより発生したごみ量の増加も震災後にごみの排出量が増加した要因の一つと考えられます。

年度	10/1現住人口 A	原発避難者 ※1		ごみ発生量(t) D	実績値 D/A/365	参考値 D/(A+B-C)/365
		市内流入 B	市外流出 C			
H22	342,710	-	-	132,138	1,056	-
H23	334,221	19,553	3,402	135,536	※2 1,108	※2 1,057
H24	330,218	22,635	2,970	139,209	1,155	1,090
H25	327,783	23,784	2,313	137,946	1,153	1,082

※1 原発避難者は、住民票を移さずに、相双地方から本市に避難している方 (B) 及び、市外に避難されている市民の方 (C) で、原発避難者特措法上把握されている人数

※2 閏年のため、366日で算出

【指標No.3】焼却ごみ量

(1)数値目標

時期	目標
平成27年度	95,000 トン
平成32年度	80,000 トン

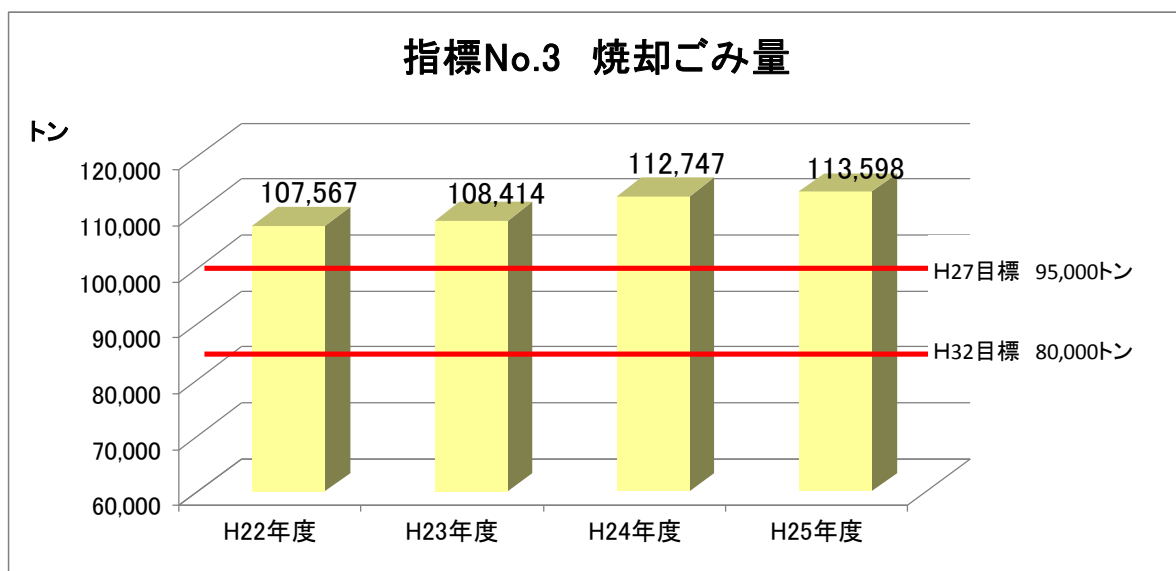
※算出式

指標 = [燃やすごみ排出量

+ 大型ごみ(可燃)排出量]

(2)実績

時期	実績	平成27年度目標値との比較
平成22年度	107,567 トン	目標値を12,567トン上回っている
平成23年度	108,414 トン	目標値を13,414トン上回っている
平成24年度	112,747 トン	目標値を17,747トン上回っている
平成25年度	113,598 トン	目標値を18,598トン上回っている



(3)状況分析

- ◆ 現行計画策定前まで減少傾向にありましたが、震災による避難者や復旧・復興事業作業員の受入れにより焼却ごみ量が増加したものと考えられます。
- ◆ 震災後、新築件数が増えていることから、建て替えや引っ越しの際に出るごみ量の増加も震災後に焼却ごみの排出量が増加した要因の一つと考えられます。

【指標No.4】埋立処分量

(1)数値目標

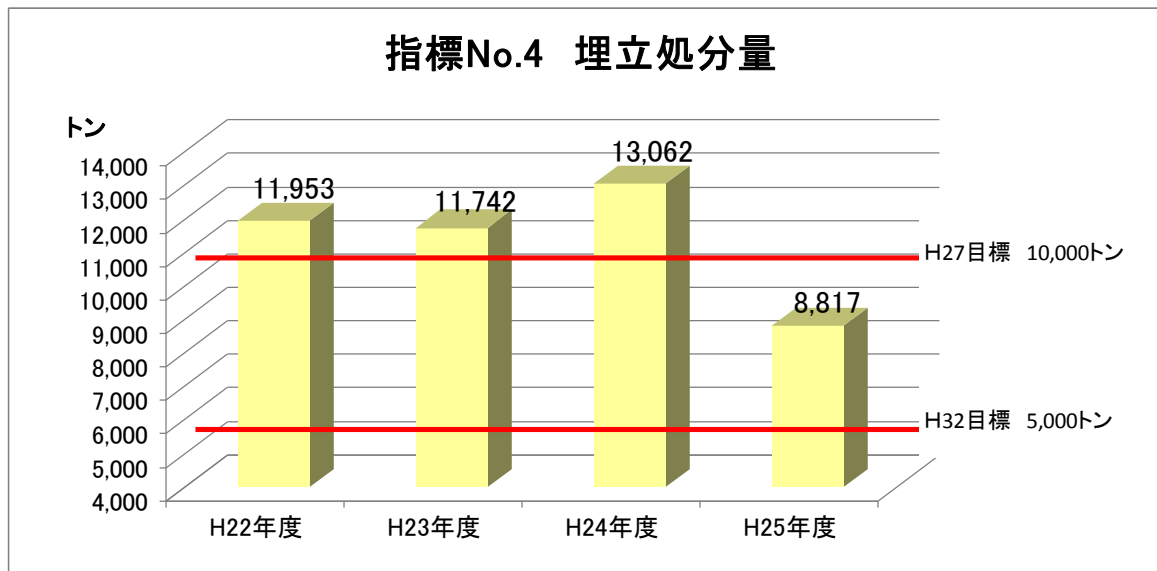
時期	目標
平成27年度	10,000 トン
平成32年度	5,000 トン

※算出式

$$\text{指標} = [\text{燃やさないごみ排出量} + \text{各施設の不燃残渣}]$$

(2)実績

時期	実績	平成27年度目標値との比較
平成22年度	11,953 トン	目標値を1,953トン上回っている
平成23年度	11,742 トン	目標値を1,742トン上回っている
平成24年度	13,062 トン	目標値を3,062トン上回っている
平成25年度	8,817 トン	目標値を1,183トン下回っている



(3)状況分析

- ◆ 焼却灰（主灰）の再資源化が再開したことにより、平成24年度と比較すると平成25年度が大幅に減少しており、平成27年度数値目標を達成しているように見えますが、震災後は、原子力災害により埋め立てることのできない飛灰（平成25年度は約4千トン）が発生しており、南部清掃センター等に仮置中であるため、目標には達していないと言えます。

（※平成26年度から飛灰の処理を開始）

- ◆ 焼却灰（主灰）以外の埋立処分量については、年々減少傾向にあります。

年度	主灰		主灰以外		合計	
	埋立処分量	増減	埋立処分量	増減	埋立処分量	増減
H22	8,079	-	3,873	-	11,953	-
H23	8,244	165	3,498	-376	11,742	-211
H24	9,960	1,716	3,101	-396	13,062	1,320
H25	6,051	-3,910	2,766	-335	8,817	-4,245

【指標No.5】リサイクル率

(1)数値目標

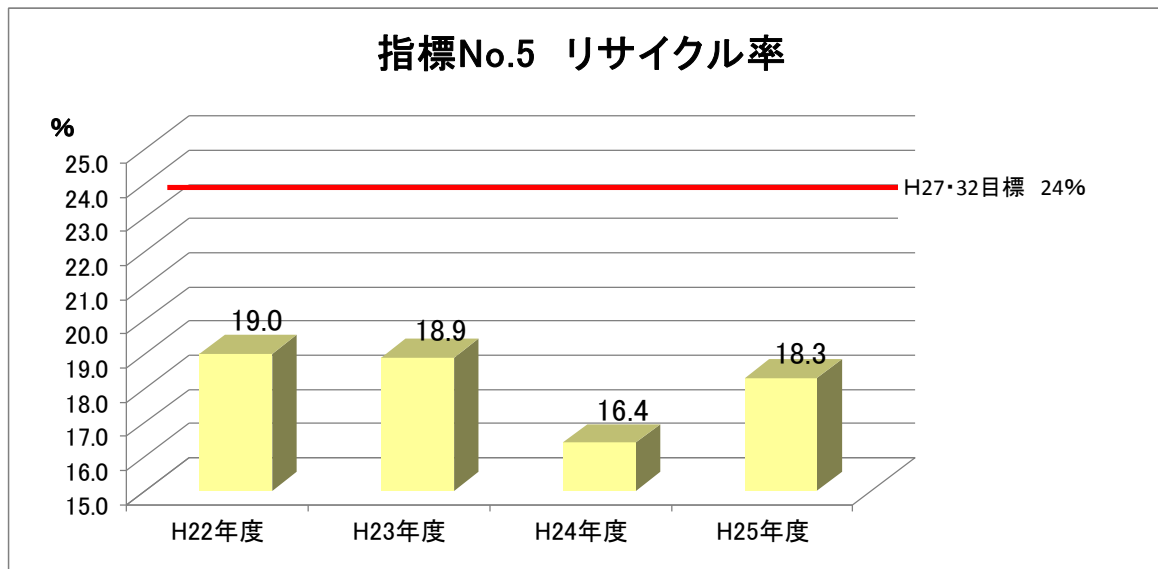
時期	目標
平成27年度	24 %
平成32年度	24 %以上

※算出式

$$\text{指標} = [\text{再資源化量} \div \text{ごみ排出量}]$$

(2)実績

時期	実績	平成27年度目標値との比較
平成22年度	19.0 %	目標値を5.0ポイント下回っている
平成23年度	18.9 %	目標値を5.1ポイント下回っている
平成24年度	16.4 %	目標値を7.6ポイント下回っている
平成25年度	18.3 %	目標値を5.7ポイント下回っている



(3)状況分析

- ◆ 主灰の再資源化量は増加しましたが、分母となるごみ排出量が増加していること、また、事業者が排出する「びん、かん、ペットボトル、容器包装プラスチック」の産業廃棄物化による再生資源化量の減少により、飛灰の処理を停止していた平成24年度を除くと、ほぼ横ばいで推移しております

年度	ごみ排出量合計		再資源化量		うち主灰と飛灰	
	排出量	増減	資源化量	増減	資源化量	増減
H22	132,138	-	25,043	-	4,628	-
H23	135,536	3,398	25,604	561	2,792	-1,836
H24	139,209	3,673	22,881	-2,723	396	-2,396
H25	137,946	-1,263	25,222	2,341	4,442	4,047